

平成26年度活動報告書(1/3)

学部・委員会名 図書館

学部長・委員長等氏名 館長 矢口 行雄

担当所管 図書館 事務課

テーマ ラーニングcommons等の充実と利用促進による来館利用者数の増加を図る

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
<p>これまでの図書館は、専ら静粛を旨とする閲覧環境を提供してきた。しかし、新図書館では、学習支援機能の充実も視野に入れ、多様化している教育方法及び学習形態に対応できる環境を提供していきたい。そのために、よりアクティブな学習の場であるラーニングcommons等の学内認知度を高め有効な利用を積極的に促し、図書館利用者数の増加につなげたい。</p> <p>具体的な施設は以下のとおりである。</p> <p>4階：グループ学習室及びアクティブ学習室</p> <p>6階：コミュニケーションフロアー</p> <p>7階：プレゼンテーションルーム</p>
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
<p>1. 実施時期</p> <p>一年間を通して施設利用を開放するため、集中して取り組む時期の設定は行わない。</p> <p>2. 実施方法</p> <p>ホームページや学内広報誌及び図書館内掲示において利用者に対する施設利用の呼び掛けを行いたい。</p> <p>3. その他</p> <p>新図書館の開館初年度のため、利用者数による達成度を判断するには至らない状況である。そのため、平成26年度においては、達成度を判断するためのデータの蓄積を行いたい。具体的には、利用頻度と利用内容及び利用者の属性等の調査を実施したい。</p>
3. 達成度を判断するための指標
<p>(1) 図書館来館者数</p> <p>(2) ラーニングcommons等の施設利用頻度</p>
4. 成果・評価
<p>■成果</p> <p>目標を達成するために必要なデータを蓄積することができた。</p> <p>■評価（5～1で記載してください）</p> <p>4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。</p>
5. 課題及び改善事項
<p>特にない。</p>
6. 平成27年度への継続の有無
<p>有</p>

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成26年度活動報告書(2/3)

学部・委員会名 図書館
 学部長・委員長等氏名 館長 矢口 行雄
 担当所管 図書館 事務課
 テーマ 農学専門分野のコレクションの充実を図る

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
<p>近年は、情報の多様化が進み紙媒体の図書や雑誌だけでなく、電子ジャーナル・e-book・オープンアクセス・データベース等の電子的な情報資源が急速に増えつつある。それらの情報資源（電子コンテンツ）を充実し、一元的・持続的な管理を目指していきたい。</p> <p>また、蔵書等に関しても農学系を中心とした自然科学・社会科学系にわたる専門分野の資料充実は元より、農学系古書や貴重書の収集及び保存にも努めていきたい。</p>
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
<p>1. 実施時期 一年間を通してコレクションの充実を図るため、集中して取り組む時期の設定は行わない。</p> <p>2. 実施方法 電子コンテンツ等の購入に関しては、現在のビッグディールによる様々な問題が発生しているため、これに代わる新モデルの検討が必要不可欠である。このことについて、オール農大として、硬直化している現状を打破するため、コレクションの契約内容の見直しを含む予算の取扱いについて、鋭意、検討していきたい。</p> <p>蔵書等に関しては、書籍取扱業者の推薦書籍を教職員が図書館内で選書できる「見計らい選書」を実施する。また、教職員が書店を訪ねて直接選書する「店頭選書」についても併せて実施したい。</p> <p>古書や貴重書についても、取扱い専門業者による選書会を実施したい。</p> <p>3. その他 選書会の実施日程については、教職員のスケジュールを十分に考慮したい。</p>
3. 達成度を判断するための指標
<p>(1) 3キャンパス図書館による電子コンテンツ等購入検討会の開催 (2) 見計らい選書の実施回数と購入冊数 (3) 店頭選書の実施回数と購入冊数 (4) 古書・貴重書の選書会の実施回数と購入冊数（但し、予算の関係上、購入冊数を指標とすることが難しい場合は、除外することがある。）</p>
4. 成果・評価
<p>■成果 見計らい選書と店頭選書を実施したが、電子コンテンツ等購入検討会と古書・貴重書の選書会については実施できなかった。</p> <p>■評価（5～1で記載してください） 3 方針に基づいた活動ができた。</p>

5. 課題及び改善事項

電子コンテンツ等の購入に関しては、原資確保のための予算編成方針も含めた抜本的な見直しが必要である。

6. 平成 27 年度への継続の有無

有（但し、古書・貴重書の選書会は継続しない。）

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成26年度活動報告書 (3/3)

学部・委員会名 図書館

学部長・委員長等氏名 館長 矢口 行雄

担当所管 図書館 事務課

テーマ 機関リポジトリによる本学の研究業績の社会発信を図る

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
<p>本学として全く新しい取り組みである。本学の教職員、大学院生等が研究及び教育活動において生成された研究成果や教育資源学術コンテンツを一元的に収集・蓄積・保存し、学内外に電子的手段により無償で発信・提供することにより、本学の学術研究の発展に資するとともに、社会に対する貢献を目的としたい。</p> <p>平成26年度においては、登録コンテンツの対象として学位（博士）論文を取り上げたい。</p>
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
<p>1. 実施時期 平成26年度中に機関リポジトリを農大ホームページ上で公開したい。</p> <p>2. 実施方法 学位論文を取り扱う学内担当部局との連携・打合せを行い機関リポジトリに対する学内のコンセンサスを得たい。技術的な面では、NII（国立情報学研究所）のJAIRO Cloud（共用リポジトリサービス）を利用し機関リポジトリを構築し運営したい。</p> <p>3. その他 次に取り組むコンテンツとして、大学紀要である農学集報に掲載された論文をリポジトリ対象として検討していきたい。</p>
3. 達成度を判断するための指標
<p>(1) 機関リポジトリによる、学位（博士）論文の公開本数 (2) 機関リポジトリによる、農学集報掲載論文の公開本数</p>
4. 成果・評価
<p>■成果 学位（博士）論文を25本公開したが農学集報掲載論文については公開できなかった。</p> <p>■評価（5～1で記載してください） 4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。</p>
5. 課題及び改善事項
<p>農学集報掲載論文については、学術雑誌編集委員会で充分議論を重ねたい。</p>
6. 平成27年度への継続の有無
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成 26 年度活動報告書 (1/3)

学部・委員会名 学術情報センター (厚木キャンパス)

学部長・委員長等氏名 センター長 桑山 岳人

担当所管 厚木学術情報センター事務室

テーマ 図書館機能の充実

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のための PDCA サイクルの基本単位です。

1. 目標 (改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など)

図書館機能の充実により、学習・教育・研究活動の支援並びに学内ネットワーク環境の充実・維持を担ってきたが、今まで以上に学生の学習と教務職員の研究をサポートする機能を高めるためのさまざまな取組みを展開する。

- ① 施設の改修 (研究棟アクティブラーニングスペース・図書館内ラーニングコモンズ)
- ② 開館時間の見直しなどソフト面の充実
- ③ 運営のスリム化、見える化

2. 実施計画 (具体的な方法・手段とスケジュールなど)

① 施設の改修

研究棟 4 階の共有スペースに電子黒板と可動式の机・イスを配備しアクティブラーニングスペースを構築する。この運用方法を定め利用状況を把握・分析し、次年度以降の他のフロアへの展開をめざす。さらに図書館内ラーニングコモンズ設置を検討する。

② 開館時間の見直しなどソフト面の充実

各学期の定期試験前 3 週間の土曜日に図書館を開館する。

③ 運営のスリム化、見える化

窓口業務を(株)丸善へ委託したことの定着化 通常業務のスリム化を図る。

3. 達成度を判断するための指標

① 施設の改修

アクティブラーニングスペースの利用状況の把握と各フロアへの展開の提案・予算獲得。

② 開館時間の見直しなどソフト面の充実

利用状況を分析し、平成 27 年度に完成する新学生会館の運用にあわせて開館日・時間の変更の検討を進める。

③ 運営のスリム化、見える化

図書の配架までの手順のスリム化をはじめ、委託先である丸善との業務の切り分けをさらに進める。

4. 成果・評価

■成果

① 施設の改修

研究棟 4 階にアクティブラーニングスペースを開設した。その結果、以下の成果を得た。

- ・卒論の中間発表や学会の口頭発表の練習の場として活用され、学生が自発的・積極的に発表する場面が増えた。
- ・使用中に他学科の教員からアドバイスを受けるなど、学科の垣根を越えた交流が始まった。
- ・講義終了後に学生から受けた質問などに対する、追加指導の場として活用できた。
- ・収穫祭等で来校者に対する説明のツールとして活用できた。

図書館内ラーニングコモンズについては、他大学の先行事例をもとに引き続き検討を行う。

② 開館時間の見直しなどソフト面の充実

本部棟2階パソコン自習室を土曜日も開室して、学生の利用時間の増加を図った。

さらに、世田谷同様に年間を通じた土曜日開館を実施するため、予算面やサービス面の検討を行った。

また、外部データベース業者との共催で「Author Workshop」を実施し、若手研究者や大学院生が外国雑誌に投稿することの意義や注意点などを提示してもらった。この参加者は世田谷キャンパスからの参加も含めて165名以上で、留学生の参加者もあり大盛況であった。

③ 運営のスリム化、見える化

窓口業務（貸出・返却、ILL等）については、ほぼ問題なく機能しており業務委託が定着化しつつあるといえる。また、年間を通して新入生向けや就活を意識した図書の企画展示を行い、利用の促進を図っている。

引き続き、業務の見直しによるスリム化とマニュアル作成による見える化を進めてゆく。

■評価（5～1で記載してください）

4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。

5. 課題及び改善事項

① アクティブラーニングスペースのキャンパス内における認知度の向上。

アクティブラーニングスペースの設置は、学生に「学び」への積極的な姿勢を引き出しつつあるが、それでもキャンパス内の認知度が高いとは言えない。今後は、他大学の成功事例などを研究し導入することで、認知度・利用度の向上に努める。

② 開館時間延長、提供するサービスに内容について、利用者の意見を積極的に吸収するとともに、実現可能なものが早期の実現を図る。また実現が難しいものもどうすれば実情に近い形で実施可能かを検討する。

③ Author Workshop は盛況のうちに終了したが、その後実施したデータベースの操作講習会は参加者が伸び悩んだ。高額なデータベースをもっと活用してもらい、コストパフォーマンスを向上させるためにどのような方法があるか、他大学などの成功事例を研究する必要がある。

6. 平成27年度への継続の有無

有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成 26 年度活動報告書 (2/3)

学部・委員会名 学術情報センター（厚木キャンパス）

学部長・委員長等氏名 センター長 桑山 岳人

担当所管 厚木学術情報センター事務室

テーマ ネットワーク環境の維持・利便性の向上

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のための PDCA サイクルの基本単位です。

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）

前年度は研究棟の LAN 機器の更新並びに無線 LAN 環境の充実を行ったが、ネットワーク環境の安定・維持に務めつつ、厚木キャンパスの LAN 環境の改善を、キャンパス内のニーズに基づき継続展開する。また、9月に予定されている3キャンパスのネットワーク更新を支援する。さらに平成27年夏に建設する新学生会館のネットワーク環境を整える。

2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）

① ニーズに基づいた LAN 環境の充実

学生・教職員のニーズに基づいた無線 LAN アクセスポイントの充実を図る。

新学生会館の LAN 環境を構築する。

② ネットワーク更新

他キャンパスと情報を共有し、9月中旬に更新を円滑に行う。

3. 達成度を判断するための指標

① ニーズに基づいた LAN 環境の充実

前年度に増設した無線 LAN のアクセスポイントを学生・教職員へ周知する。

ネットワークの利用状況や無線 LAN のアクセスポイントの活用状況を把握し、運営委員会や学科長会での意見徴収や学生の声を集める。

② ネットワーク更新

プロセスを記録し、次回の更新にむけての課題を整理する。

4. 成果・評価

■成果

① ニーズに基づいた LAN 環境の充実

別添資料1が示す通り、年間を通じて安定したアクセス数が確認できる。特に学生の間でスマートホンの所有率がほぼ100%となったことにより、ちょっとした調べものであればPCを起動せずにスマートホンで検索していることが数字を押し上げる要因の一つではないかと考えられる。

② ネットワーク更新

今回のネットワーク更新は、実質 H26 年 6 月からの始動と極めてタイトなスケジュールのなかで行われた。ネットワーク機器や学生用 PC の交換などはほぼ予定通りに進行し、ネットワーク不通に伴う学生負担は最小限に抑えられたと考えている。また、いくつか次回の更新時に注意すべき事項が発生したので記録した。

■評価（5～1 で記載してください）

4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた。

5. 課題及び改善事項

① ニーズに基づいた LAN 環境の充実

今後は Wi-Fi 環境の整備や、キャンパス内に防災上の観点から自家発電設備のある携帯電話基地局の設置なども視野に入れて検討する必要があるのではないか。

② ネットワーク更新

- ・業者選定の関係で準備期間が確保しにくい、やや時間を要してしまった。
プロジェクトの効率的な進め方について、担当部署は積極的に学び活用する必要がある。
- ・各キャンパス間あるいは担当部署間の意思疎通に問題があり、正確な情報の共有が出来ていない場面があった。
- ・更新後の本格運用時に、当初業者から説明された機能が実際の場面で動作しないなどの不具合が散見した。システム導入後の確認テストをもっと厳しく行う必要がある。

6. 平成 27 年度への継続の有無

有 別添資料 1 (研究棟無線 LAN 利用者統計 201501)

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成 26 年度活動報告書 (3/3)

学部・委員会名 学術情報センター（厚木キャンパス）

学部長・委員長等氏名 センター長 桑山 岳人

担当所管 厚木学術情報センター事務室

テーマ 蔵書スペースの確保と蔵書の整理の推進

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のための PDCA サイクルの基本単位です。

<p>1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）</p>
<p>厚木学術情報センターの蔵書冊数（7 万 1 千冊）が適正な収容冊数（7 万 2 千冊）の限界値に迫っており、新たな蔵書スペースを確保することが喫緊の課題となっている。 有限な蔵書スペースを有効に活用するため、蔵書の除籍・廃棄を推進する。</p>
<p>2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）</p>
<p>蔵書増加に関しては本部棟地下 1 階のスタジオを閉架書庫として活用することを検討している。当初は手動式の可動集密書架の整備を予定したが、世田谷キャンパスの仮設図書館の備品を再利用して蔵書スペースを確保する計画である。 蔵書の利用状況に応じて蔵書の除籍・廃棄を適宜進める。</p>
<p>3. 達成度を判断するための指標</p>
<p>閉架書庫を確保することで開架書庫の整理・適正配架を進め、閲覧しやすい環境を整える。 蔵書の除籍・廃棄計画を策定し、当年度から運用を開始する。</p>
<p>4. 成果・評価</p>
<p>■成果 本部棟地下スタジオへ世田谷の仮設図書館で使用していた書架 10 本を設置した。その後、移動対象の図書を選定を行い、平成 26 年度中に第 1 回目の移動を実施する。 また、センターの書架スペースに余裕ができるので、農学分野を中心に一部図書の再配架を実施する。</p> <p>■評価（5～1 で記載してください） 4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた</p>
<p>5. 課題及び改善事項</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・閉架書庫を含めた学術情報センターの運営体制の構築。資料保存や出納とそれに関わる費用面のバランスを考慮したマニュアルの作成が必要となる。 ・大学図書館の機能である「資料の保存」の観点から考えると、スペース確保のために安易に資料の除籍や廃棄を行うことはできない。資料の価値をどのレベルで判断するかが重要なカギとなる。今後一定の判断基準を策定する必要があるため、他大学の事例を研究する。
<p>6. 平成 27 年度への継続の有無</p>
<p>有</p>

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成26年度活動報告書 (1/3)

学部・委員会名 学術情報センター (オホーツクキャンパス)学部長・委員長等氏名 センター長 佐藤 広顕担当所管 学術情報センターテーマ 幅広い教養の習得・学部大学院一貫教育に関する支援

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

1. 目標 (改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など)
<p>①入学制度の多様化により、入学時の基礎学力にばらつきがあることから、入学前教育、入学後のリメディアル教育・語学教育の充実により底上げが求められている。</p> <p>②学力・気力に優れた学生に対してよりその能力を伸ばすための支援環境を充実させ、最終的に大学院進学へ連動させる。</p>
2. 実施計画 (具体的な方法・手段とスケジュールなど)
<p>① ②共通 学情センター開館時間の拡大により学習環境の整備する 提供サービス (閲覧場所・PC 貸出のみ等) を限定して試験的に開館時間を延長し学習環境の改善を図る ラウンジにプリンターを設置し、繁忙期、閉館時の学習環境を改善する</p> <p>①教養教育 (コンテンツ・資料) の充実 (各種委員会と連動した選定) ②当該分野研究における専門資料の充実 (専攻と連携した選書・タイトル見直し)</p>
3. 達成度を判断するための指標
<p>①館内利用者・当該書籍の貸出状況、当該書籍の館内利用状況、当該資料の閲覧回数 ②現契約状況の共有、院生指導手順の共有、当該研究分野専門資料の洗い出し作業</p>
4. 成果・評価
<p>■成果 定期試験前の開館時間を20時から21時まで閲覧場所を1階に限定して延長したが、延長時間の利用者は少なかった。バス通学者は利用できないことから全員に対するメリットとはならなかった。一方定期試験直前の日曜日を9時から17時まで開館したが、利用者は土曜日と同様に多かった。 PC貸出を館内限定から1泊2日まで館外貸出可としたことによりPC利用者が増加した (特にPPを作成する目的利用者にとって効果があった)。 平成26年8月のネットワーク更新に伴いラウンジにプリンターを設置したことにより学生にとってレポート等の提出にあたって、開館時間に影響されないためPC利用者が分散した。なお、試験前にラウンジの利用時間を22時から24時まで延長したが利用者はほとんどいなかった (深夜利用の場合は研究室等での利用が想定されることから効果はなかった)。 電子ジャーナル・文献データベースいずれもここ数年大幅な値上げにより、契約内容の充実はできなかった。逆に予算の関係からタイトルの削除をせざるを得なかった。教養教育、専門書の選書については、リメディアル図書、参考系洋図書 (専門) を補填した。 なお、館内利用者は昨年度を下回った (最終的な数値は4月に確定)。しかし、統計を取ることができないが本来の目的でセンターを利用するものが増えた (滞留時間が長い) 一方、一時的な利用者 (いわゆる休憩目的) が大幅に減ったことにより、大混雑という状況はあまり見られな</p>

くなった。

館内における図書の閲覧状況の詳細は分析できないが専門書の利用が増えていることが確認できた。

■評価（5～1で記載）

① 館内及び関連場所（ラウンジ）等の環境改善 評価3

開館時間の延長（特に土日）、ラウンジへプリンターを設置したことにより改善効果があった

② 教養・専門教育コンテンツの充実 評価2

タイトルの大幅な値上げが連続したためタイトルが削減された。

5. 課題及び改善事項

① 館内利用環境は、時間延長（20時以降）は最終バスの運行を見直さない限り利用者は増えない。直前の土日は、売店・食堂等と連携して開館することが学生へのメリットとなる。

② 蔵書スペースが狭隘化により冊子コンテンツ充実に支障をきたしていることから、現実的な対応策として、除却対象・除却基準の見直しが必要。

③ 3キャンパスで一体となって契約しているEJ・DBはオホーツクキャンパスにとってメリットではあるが、タイトルの契約に対する優先度がないため、今後の契約方法とその予算措置（原資）のあり方は財務担当所管を含む3キャンパス全体で検討する必要がある。

6. 平成27年度への継続の有無

有（一部）教養・専門コンテンツの充実については、予算措置の在り方、除却基準、世田谷図書館地下保管庫の有効活用を別途協議することが優先と判断した。

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成26年度活動報告書 (2/3)

学部・委員会名 学術情報センター (オホーツクキャンパス)

学部長・委員長等氏名 センター長 佐藤 広顕

担当所管 学術情報センター

テーマ 地域連携並びに6次産業化に係る研究環境に関する支援

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

1. 目標 (改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など)
① 学部教育理念を反映した学部カリキュラム基礎となる実学センタープログラム、フードマイスタープログラム (オホーツクものづくり・ビジネス地域創成塾) に関連した活動の支援
2. 実施計画 (具体的な方法・手段とスケジュールなど)
① 学情センター利用者に対するガイダンス ② 塾生プログラム実施に係る講師利用権限付与 ③ 公募要領への付記、開講時ガイダンスでの周知 ④ 当該研究分野選書方法の連携
3. 達成度を判断するための指標
① 利用者申込み状況 ② 館内利用状況 ③ 当該書籍・書籍の貸出状況・館内閲覧状況・閲覧回数
4. 成果・評価
<p>■成果 創成塾の受講生が少数 (10名~15名程度)、利用目的が限られることから塾生へのメリットに繋がっていない (来構日が週末に限定されている)。 フードマイスター受講生は学生であることからこのテーマの対象者が少ない。</p> <p>■評価 (5~1で記載)</p>
5. 課題及び改善事項
<p>フードマイスター講座、創成塾講座に対する支援は、学術情報センターが中心となって対応することは難しい。 担当教員と協議して選書を配慮することが妥当。</p>
6. 平成27年度への継続の有無
<p>なし このテーマについては要検討。学情センターが主体ではなく学部全体の取組みとして検討すべき。</p>

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成26年度活動報告書 (3/3)

学部・委員会名 学術情報センター (オホーツクキャンパス)学部長・委員長等氏名 センター長 佐藤 広顕担当所管 学術情報センターテーマ 学生のライフサービス向上

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のための PDCA サイクルの基本単位です。

1. 目標 (改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など)

キャンパスと市街地の交通手段 (バス) は便利とは言えない。授業開始時間、昼休み、授業時間を考慮した最低限の運行。対策として、授業間の休憩場所、リラックスする空間の設置が必要。特に冬期間における環境整備は喫緊の課題である。

キャンパス内におけるサービスを工夫することにより、学生のライフサービスの改善に繋がる。

2. 実施計画 (具体的な方法・手段とスケジュールなど)

学生が休憩する場所に対する PC 利用環境の改善、ブラウジングルームに準じたスペースの整備、雑誌等を設置

利用時間延長、食堂・売店の営業時間延長、自動販売機等の設置、ラウンジに雑誌・図書等の整備、ラウンジにプリンターの設置

3. 達成度を判断するための指標

ラウンジ利用者

学情センター利用者

卒業時のアンケート評価

4. 成果・評価**■成果**

試験前の開館時間を 20 時から 21 時まで閲覧場所を 1 階に限定して延長したが、延長時間の利用者は少なかった。バス通学者は利用できないことから全員に対するメリットとはならなかった。一方試験直前の日曜日を 9 時から 17 時まで開館したが、利用者は土曜日と同様に多かった。

PC 貸出を館内限定から 1 泊 2 日まで館外貸出可としたことにより PC 利用者が増加した (特に PP を作成する目的利用者にとって効果があった)。

平成 26 年 8 月のネットワーク更新に伴いラウンジにプリンターを設置したことによりレポート作成目的 PC 利用者が分散した。なお、試験前にラウンジの利用時間を 22 時から 24 時まで延長したが利用者はほとんどいなかった (深夜利用の場合は研究室等での利用が想定されることから効果は低い)。

あわせてラウンジにラックを設置し、雑誌を設置したが利用者を増やす大きな効果は確認できなかった。雑誌の種類を見直すことも必要。

なお、館内利用者は昨年度を下回った (最終的な数値は 4 月に確定)。しかし、統計を取ることができないが本来の目的でセンターを利用するものが増えた (滞留時間が長い) 一方、一時的な利用者 (いわゆる休憩目的) が大幅に減ったことにより、大混雑という状況はあまり見られなくなった。

卒業生に対するアンケートがまだ実施されていないので 4 月に確認し報告したい。

■評価（5～1 で記載）

学生へのライフサービスの向上 評価 3

学術情報センターとしての対応できる範囲において学生サービスの向上へ繋がったと考えられる。

5. 課題及び改善事項

学生サービスの向上は学術情報センターとしての枠組みではなく、学部全体の取り組み（ライフサービスの向上）として学部全体の取組みとして具体的に活動計画に反映させるべき。

次年度から課題を体系的に構築する必要がある。

6. 平成 27 年度への継続の有無

有（ただし、学部全体の取り組みとして体系的に展開すべき）

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。